

あおたけ

まきび病院家族会機関紙 事務局
〒710-1301 岡山県倉敷市真備町箭田 2387
TEL (086) 698-6511 2011.7 第151号
ホームページアドレス <http://www.ne.jp/asahi/m/0/aotake/>

<5月定期総会の報告>

22日(日)、大勢の方の参加を得て開催され、事業報告、事業計画、決算、予算案、監査他無事、成立承認されました。動議として一部会則の変更、およびけんかれん負担金について動議があげられました。詳細は今後、定例会の中での検討課題となりました。そのあと佐野副院長先生から「40年の臨床経験から～家族の方に伝えたいこと～」と題して記念講演がありました。以下、要点です。

・人生の分け方、自身が老年期を迎えるにあたり、肯定的にとらえることに共感。人生の「中期」を病院での仕事に捧げた。一色院長と出会ったのは医療者自身がまだ差別・偏見を助長していた時代。地域で支えることを前提に夜間診療所を開所・往診などしたが再発、入院を防ぐことができなかった。ハードではなくソフトとしての人が大事だと実感「病院」を休養の場とすべく全開放、「自由入院」のまきび病院ができた。

・最近精神科受診が急増。人口比40:1人の割合。特にうつ。30年前の10倍。医師数も3倍増。精神疾病による経済損失が大きいにもかかわらず、国の対策疾病として取りあげられていない(後日、五大疾病の1つとして取り上げられました)。生活を医療で管理しないよう、意識してきた。発症10年で服薬せずに軽快した男性を診て、医療の中に取り込んではいけないと再認識した。どれだけの人が関わるかが軽快につながる。福島県のある精神科病院を

解体したところ、半数の人がグループホームなどで自立生活が営めている。社会の中での生活が回復の基本。精神医療の今後の方向性として考えられる1つめは脳科学による新しい薬物が開発され原因究明。ただしすべて仮説に基づく。2つめは生活環境を整えること。

●質疑応答

Q. 服薬(副作用)に不安があるが?

A. 精神科の薬は安全。また「治療係数」= (治療行為+患者さんの意思+家族や社会の理解と協力)/病気の重さ×1/時間によるといわれていることを意識して臨床に臨んでいる。

<6月定例会の報告>

総社市「橘」にて昼食、鬼ヶ城散策で交流会を開きました。

【ご協力をお願い】

家族会では秋のまきび病院お祭りではバザーを開催予定です。ご自宅にねむっている不用品・消耗品などがありましたら提供にご協力いただけますようお願いいたします。詳細はおってご案内していきます。

お知らせ

- ① 7月定例会は24日(日)13時30分～、マインドホールにて「看護と話そう」です。
- ② 8月定例会は21日(日)13時30分～、マインドホールにて地域での実践報告を役員のAさんからしていただく予定です。